

令和4年度

講習4日間の概要と配布する教材の概要

区 分		講 義 (会場大型スクリーン使用)	配布教材(当日受付で渡す)●：全員配布 ○：同一人へ重複配布しない	受講料に含む教材領価(円) 教材セットで領布	
概 説	A1 法令 講義 7月29日(金) 9:20~17:00 講師：大坪 信武 (協会)	火取法と関連規則等の講義は火薬類取締法令集に依るが、それを総則、製造、販売、貯蔵、火薬類譲渡及び譲受、輸入、運搬、消費、廃棄、安定度試験、その他の12章35Pにまとめて編集し、A1テキストとした。35Pは繰り返し通読に適した量。 法令集は近年大幅改正されたわけではなく、2~3年以内刊のものを必携図書として必ず手許に置き、折々に、法令条文の本文を読んで理解を確かなものとする。 A1テキストをもとに1日講習用にA1講習スライドとして作成した。 講師は、火薬類メーカーで製造・技術営業職歴30余年の協会専務理事が担当する。	●A1テキスト「火薬類取締法(法令)概説」A4版35P 協会編 適度のサイズのテキスト本として、改訂を重ねて作り上げて来た。 ●A1講習スライド A4版35P(1Pに6画面) 画面を補って講師が解説するコメントを聞いて欲しい。 ○昨年(令和3年)実出題の問題・解答用紙・正解表のコピー (各人の甲・乙受験種目別に配布。自己採点自習用) 実出題の見本。模試として取組み自己採点して、誤りあった分野を再度見直して欲しい。	4600 + 送料1000	法令セット①
	B1 火薬学 講義 7月30日(土) 9:20~17:00 講師：川村 実	「火薬学」は大学2単位の教科で、取扱保安責任者用の火薬学の教本は「一般火薬学」が最適で、必携の本としている。 大学2単位の教科を、1日間の講習で網羅的に解説する事は困難なので、講習用B1テキストとして「火薬学概説」41Pを作成し、通読に適する分量とした。 これを基にB1講習カーソルスライド作成し画面で効率的に解説する。 講師は火薬類の販売会社(株)ジャパックスの営業企画室の要職にある川村室長が担当し、長年の製造技術・消費技術指導等の知識・経験を基に丁寧に解説する。	●B1テキスト「火薬学概説」A4版41P 協会編 幾度も通読して欲しい。 ●B1講習スライド A4版40P(1Pに6画面) ○昨年(令和3年)実出題問題のコピー (甲・乙受験種目に応じて配布。自習用)	4600 + 送料1000	火薬学セット①
過 去 問 題 の 解 説	A2 法令 講義 7月31日(日) 9:20~17:00 講師：大坪 信武 (協会)	「法令」「火薬学」共に、試験では、甲・乙共通問題10題、甲・乙の独自問題各10題が各出題される。過去問題数は、甲・乙両種目で毎年60題が蓄積される。 A2.B2講習では、「法令」「火薬学」の両科目共に、直近14年の過去問題各約400題から分野別に、代表的な問題、正解率が低かった難題等約200題を選んで基本資料とし、更に詳細解説に適した約150題を、順に ② 問題文の映写 ②各自解答一解答用紙に記入(後日進捗確認の為保存) ③ 講師による解答と解説(受講者への指名等も含む) A2は280画面、B2は282画面。受講者は、スライド資料にマーカー等で記入しつつ聞くのが効率的。 A2講師もA1と同じ、当協会の専務理事が担当。 B2講師は、B1と同じ火薬学に精通した川村氏が担当する。	●法令過去問題より選抜して講習スライドに作成。A4版50P ●法令は、平成27年~令和3年の7年分を年次順に並べた「過去問題集-1」と、平成20年~令和3年全420問の中から27の出題分野に割り振った各問題を、更に構成する4箇の短文を「正しい短文」群と、「誤りを含んだ短文」群に分けて構成した「過去問題集-2」で構成。A4版53Pと44P ○昨年(令和2年)実出題問題のコピー	4600 + 送料1000	法令セット②
	B2 火薬学 講義 8月1日(月) 9:20~17:00 講師：川村 実	●火薬学過去問題より選抜して講習スライド作成。 A4版49P(1Pに6画面) ●火薬学は、平成27年~令和3年の7年分を年次順に並べた「過去問題集-1」と、平成20年~令和3年全420問の中から32の出題分野に割り振った各問題を、更に構成する4箇の短文を「正しい短文」群と、「誤りを含んだ短文」群に分けて構成した「過去問題集-2」で構成。A4版49Pと32P ○昨年(令和3年)実出題問題のコピー	4600 + 送料1000	火薬学セット②	
4日間共通の時間割		9:00~ 受付・入室 9:20~ 開 講 12:00~13:00 昼 食・休 憩 16:30~17:00 質疑応答の時間		法令セット①② 10,200円 火薬学セット①② 10,200円 法令・火薬学セットの場合 19,400円	

「教材さえ入手すれば、受講せず自習で…」とする考え方に賛成出来ない。最も能率的で効果ある受験準備方法と確信して、受講をお勧めします。